

平成22年度

## 病害虫発生予察情報 第22号

### 特殊報第1号

平成23年 3月16日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

連絡先:北海道病害虫防除所

Tel. 0123(89)2080

Fax. 0123(89)2082

## MBI-D剤耐性いもち病菌の発生について

発生確認作物：水稲

病害虫名：イネいもち病

病原菌：*Pyricularia grisea* (Cooke) Saccardo (MBI-D剤耐性)

### 1. 発生の確認経過

平成22年、道内の1農家ほ場でいもち病菌のジクロシメット剤に対する感受性の低下が疑われる事例が認められたことから、一般栽培の水稲4品種からいもち病菌を分離し、MBI-D剤に対する感受性の検定をPIRA-PCR法（高垣ら 2003、Kaku et al. 2003）によって行った。その結果、供試した14菌株はいずれもMBI-D剤耐性菌と判定された。

本系統薬剤に対する耐性菌は北海道で初確認であることから、道総研農業研究本部農業試験場が平成22年度北海道農業試験会議において新発生病害虫として報告した。

その後、発生地点周辺における実態調査を進めたところ、耐性菌が確認された農家の周辺地域において、もち米の採種ほも含む複数のほ場から本剤に対する耐性菌が検出され、耐性菌の発生が面的に広がっていることが明らかとなった。

### 2. MBI-D剤について

- (1) MBI-D剤とは、シタロン脱水酵素阻害型メラニン合成を阻害する防除薬剤で、いもち病菌の稲体への侵入を阻害することにより防除効果が得られる。有効成分としては、ジクロシメット、カルプロパミド、フェノキサニルなどがある。
- (2) メラニン合成阻害剤には還元酵素阻害型（MBI-R）もある。この系統の有効成分にはフサライド、トリシクラゾール、ピロキロンなどがあるが、MBI-D剤耐性菌はMBI-R剤には感受性であるため、防除効果が低下することはない。

### 3. 防除対策

- (1) 今回、MBI-D剤耐性菌の発生が確認された地域では、耐性菌の拡散と定着を未然に防ぐためMBI-D剤を使用しない。
- (2) 耐性菌が確認されたほ場には、もち米の採種ほも含まれていたため、平成23年度のもち米生産場面においては、耐性菌の拡散と定着を未然に防ぐため、MBI-D剤を使用しない。
- (3) うるち米の生産場面においては、耐性菌の発生拡大と定着を未然に防ぐため、MBI-D剤を使用する場合は、年1回以内にとどめる。
- (4) ベノミル水和剤（ベンレート水和剤）は耐性菌にも効果が認められており、同剤による種子消毒または苗床灌注を励行する。